
三分で！裏まで透ける『世界の資料集』

怒満坊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三分で！裏まで透ける『世界の資料集』

【Nコード】

N3612L

【作者名】

怒満坊

【あらすじ】

「国際的なニュースを見聞きするだけでなく、その裏にある真実を解読するのに、基礎的な知識として、最低限必要なものが、ロスチャイルド財閥の現代史である」

読書のための、雑記帳代わりに使用したい。

公開することにより、読者が、自由に使える「知識のインデックス」にすることを目的とする。

ネットで調べるときの、字引・辞書代わりに使ってもらえればいい。

「ロスチャイルド家誕生」

本書の目的は、筆者自身の読書の雑記と、読者のための「知識のインデックス」である。

この雑記を、読者が、自分自身で調べるための「手がかり」としてくれれば幸いである。

広瀬隆氏『赤い楯「ロスチャイルドの謎」』集英社文庫 より抜粋あるいは改編

*マイヤー・アムシエル・ロスチャイルドの出世物語は、次のように伝えられる。

初代ロスチャイルドの生きた時代は、1744年からフランス革命をはさんで、1812年。

当時、通信手段は郵便に限られていた。

そのため、投機で稼ぐには、いかに、情報を制するかであった。

ロスチャイルド家は、ドイツ、オーストリア、イギリス、イタリア、フランスの五力国を、同族結婚によって結び付けていた。自家製の郵便船を準備し、ヨーロッパ大陸で何か事件があれば、即座に情報を交換できる体制を整えていた。

たとえば、ドイツ・ロスチャイルド家（二代目）は、イタリア家の長男（三代目）を養子にもらい、さらにその娘（四代目）が、フランスのロスチャイルド家に嫁いだ…

こうした同族結婚を繰り返し、ヨーロッパ全土に、家族というネットワークを構築していった。

*ドイツ語の Rothschild = ロスチャイルド = 「赤い楯」
ロートシエルト

*1764年 初代マイヤー（20歳）がドイツ・ロスチャイルド

商会創設

1804年 三男ネイサン（27歳）がイギリス・ロスチャイルド商会創設

1817年 五男ジェームズ（25歳）がフランス・ロスチャイルド商会創設

1820年 次男サロモン（46歳）がオーストリア・ロスチャイルド商会創設

1821年 四男カール（33歳）がイタリア・ロスチャイルド商会創設

三代目ネイサンが、ロスチャイルド家の本格的な栄華を築いた大商人と呼ばれ、「金融王ネイサン」と言われている。

「ロンドンの「五大商業銀行」と「五大金塊銀行」

*金融王ネイサンは、ロンドンにロスチャイルド商会を開設して、早くも二年後、

イギリスのユダヤ人富豪「リーヴァイ・コーエン」の娘と結婚してしまった。

この婚姻がもたらしたものは、“持参金”だけではなかった。

このとき、シティーの金融街を動かしていた、ユダヤ人の商家「モンテフィオーレー族」と閥閥^{けいぼつ}が生まれ、

ネイサンは、金銀の地金を自由に入手できるようになったのだ。

なぜなら、「モンテフィオーレー家」は、強敵「ベアリング一族」に金塊を運んできた、

「モカッタ・ゴールドシュミット商会」と婚姻関係を結んでいたからである。

金 「モカッタ商会」「モンテフィオーレー家」「リーヴァイ・コーエン」「金融王ネイサン」

*この話を現代に移すと、今日のロンドンで、全世界の金価格を決めているのは、ロスチャイルド家の当主のほかに四人いる。

?金融ブローカー「モカッタ・ゴールドシュミット商会代表」…スペインで活動していた一族が、ロンドンに来て名乗った名前が「モカッタ家」。

シティーの支配者「ゴールドシュミット家」と組んで創立した金塊銀行「モカッタ・ゴールドシュミット商会」は、イングランド銀行のブローカーとして一大勢力を形成していた。ネイサンは、この構図に、あとから来て入り込み、閥閥を結んで、財産を支配してしまった。「スタンダード・チャータード銀行」…英首相メージャー

が幹部であつた銀行。今日でも、香港の紙幣は、この銀行と、「香港海上銀行」により発行されている。

？「シャープス&ピクスレー商会」

？「サミュエル・モンタギュー商会」

？「ジョンソン・マッセイ」

五人のうち五人とも、ロスチャイルド一族の代表者である。以上が、『ロンドンの五大金塊銀行』：

*『五大商業銀行』

？「ロイズ銀行」：ロイド家九代目；植民大臣ジョージ・ロイド

？「バークレーズ銀行」：会長代理のマーティン・ジェイコムは、金価格を決める五大支配の銀行のうちの一つクラインウォート・ベントン・ロンズデールの重役。アンソニー・デュークは、「リオ・チント・ジンク」の会長である。

？「ウエエスト・ミンスター銀行」

？「ミッドランド銀行」：子会社「サミュエル・モンタギュー商会」

？「スタンダード・チャータード銀行」：姉妹銀行「モカッタ・ゴールドシュミット商会」

↳ロスチャイルド系企業一覧↳

ロスチャイルド系企業一覧(<http://toyotoman.iza.ne.jp/blog/entry/425500/> より引用)

【通信】タイムズ・ザ・サン(新聞) ロイター・AP(通信社、世界の情報はこの2社から発信) ABC・NBC・CBS(米三大ネットワーク放送)

【石油】ブリティッシュ・ベトロリアム・ロイヤル・ダッチシエル

【兵器】ビッカース・ダッソー・アームストロング・シュットーデル

【金属】ミノルコ・モンド・ニッケル・モンド社^{アルカリ}

【その他】フィリップ・モリス(米タバコ)・ローマ・ブーラン(仏最大の総合科学・製薬メーカー)・デビアス(鉱物会社)「ダイヤモンドを独占」・リオ・チント・ジンク(鉱物会社)「金・ウランをほぼ独占」

【食品】ネスル(コーヒー)・ユニリーバ(食品)・ブルックボンド(紅茶)

【銀行・保険】フランス銀行・イングランド銀行・パリ国立銀行・スエズ金融・香港上海銀行・ウェストミンスター銀行・ルイ・ドレフエス商会・ソロモン・ブラザーズ・ラザール・フレール・ゴールドマン・サックス・カナダロイヤル銀行・アラブ投資銀行・モントリオール銀行・ジェネラル銀行・ブリュッセル・ランベール・ウエストバンク

日興証券・三井系企業・カーネギー・デュポン・ヴァンダービルト・アスリー・JPMorgan・ハリマン・メリルリンチ・ロッキード・マーチン社・コカコーラ・モサド・米民主党・FRBの株主(一社を除きロスチャイルド系)

補記(引用 ウィキペディアより)

スーパーメジャー

- 1 エクソンモービル（2008年度・売上高4773億ドル）
ロッキフェラー系
- 2 ロイヤル・ダッチ・シェル（2008年度・売上高4584億ドル）
ロスチャイルド系
- 3 BP（2008年度・売上高3657億ドル）
ロスチャイルド系
- 4 シェブロン（2007年度・売上高2209億ドル）
- 5 トタル（2008年度・売上高1799億ユーロ）
- 6 コノコフィリップス（2007年度・売上高1885億ドル）

〜ジェームズ・ゴールドスミス〜

【ウィキペディア】

ジェームズ・ゴールドスミス

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

移動：ナビゲーション、検索

James Goldsmith

ジェームズ・ゴールドスミス

生誕 1933年2月26日

フランス・パリ

死没 1997年7月18日（満64歳没）

スペイン

出身校 イートン校（中退）

職業 実業家

配偶 下記参照

子供 下記参照

表・話・編・歴

ジェームズ・ゴールドスミス（James Michael Goldsmith、1933年2月26日 - 1997年7月18日）は、フランス生まれのイギリスの実業家。

目次 「非表示」

1 プロフィール

1.1 生い立ち

1.2 大富豪

2 家族

3 関連項目

プロフィール 「編集」

生い立ち 「編集」

イギリス人ではあるが、第二次世界大戦前の1933年にフランスのパリで、ユダヤ系の実業家^{ホテルオーナー}で国会議員でもあるフランク・ゴールドスミスとマルセル・モーリエの間に生まれた。イギリスの名門校として知られるイートン校に進学したものの、1949年に退学する。

大富豪 「編集」

親の資産を受け継ぎ数多くの企業を経営するほか、投資家で大富豪としても知られ、1986年にアメリカのタイヤメーカーであるグッドイヤーに対して行った買収劇など、自らが率いる投資会社による数多くの仕手戦でその名が取りざたされた。

また、ヨーロッパのみならず、世界を驚愕させた大スキャンダルである「ロベルト・カルヴィ暗殺事件」においても関与が噂された。晩年は政治活動に力を置いたものの、1997年に癌により64歳でスペインの病院で死去した。

家族 「編集」

3度の結婚歴がある。最初の妻であるスペイン貴族のマリア・イサベル・パティニョは、1954年に長女イサベルを出産後急逝した。2度目の妻との間に長男と次女をもうけた。

第3代ロンドンベリー侯の娘アナベル・ヴェイン・テンペスト・ステュアートとは長く不倫の関係にあり、1978年に2人は正式に結婚した。三女ジェマイマ（1974年生、パキスタン人クリケット選手イムラン・カーンの元妻。現在ユネスコ大使）、次男ザカリ阿斯（1975年生、環境活動家）、三男ベンジャミン（1980

年生、ファイナンシャー）はアナベルとの間の子供である。

1980年以降、ジエームズは愛人であるフランス貴族のロール・ブレイとアメリカのニューヨークへ移住。彼女との間にさらに二子もうけた。亡くなるまで、ロールを公私ともに妻として扱っていた。

【最近の記事】

ゴールドスミス家御曹司、ロスチャイルド家女性と不倫で離婚

2010年5月13日（木）16時20分配信 ゆかしメディア

ゴールドスミス家御曹司で環境活動家としても有名なザック・ゴールドスミス氏（35）が、妻シエハラザードさん（36）と離婚することが明らかになった。ゴールドスミス氏が、金融財閥ロスチャイルド家のメンバーで、親戚のアリス・ロスチャイルドさん（26）と不倫をしていたことが原因。英メディアが報じた。

ザック・ゴールドスミス氏は、著名なユダヤ系大富豪・故ジエームズ・ゴールドスミス卿とレディ・アナベルさんの息子。ゴールドスミス氏とシエハラザードさんは1999年に結婚したが、昨年シエハラザードさんが夫の不倫を知り、別居していた。不倫相手のアリス・ロスチャイルドさんは、ゴールドスミス氏の弟・ベンさんの妻の妹。

離婚は数週間以内に成立するとみられているが、ゴールドスミス氏の資産が2億ポンドから3億ポンド（270億円～405億円）と予想されるため、莫大な慰謝料が支払われると注目されている。法律家は、同氏の資産のほとんどは父親の遺産のため、妻への財産分与対象にはならないと予想。しかし、2008年のポール・マツカートニー氏と元妻ヘザー・ミルズさんの離婚慰謝料2430万ポンドを凌ぐ金額になる可能性があるとしている。

ゴールドスミス家は中世より、独フランクフルト、英ロンドンを中心にヨーロッパの金融を掌握してきたマーチャント・バンカー。古くからロスチャイルド家とは姻戚関係にあることで知られる。ゴールドスミス氏は、先日の総選挙でロンドンのリッチモンド・パーク選挙区で保守党の新人議員として初当選していた

<http://news.nifty.com/cs/world/worldaildetail/yucasee-20100513-3443/1.htm>

ゝ現代ロスチャイルド一族ゝ（前書き）

<http://www.assyura2.com/0306/idlink2/msg/981.html>

阿修羅 投稿者エンセン様より お借りしました。

〈現代ロスチャイルド一族〉

イギリス家当主 ジェイコブ・ロスチャイルド男爵

1936年生まれ。

80年以後の「ファイブ・アローズ証券」会長。

J・ロスチャイルド・ホールディングス社長。

ロスチャイルド投資信託（REIT）キャピタル・パートナーズ会長…

…ジョージ・ソロスらの金価格操作やヨーロッパ各国の企業買収、

CIAレポートなどに暗躍。

アムシエル・ロスチャイルド（ジェイコブの異母弟）

1955年生まれ。

世界一の酒造業者ギネス家の令嬢アニタ・ギネスと結婚し、ロンド

ン・ロスチャイルド銀行の資産運用会社ロスチャイルド・アセット・

マネージメント会長…

…世界貿易の背後で大掛かりな投資活動を展開していたが、96年7月8日に謎の自殺を遂げた。

エマ・ロスチャイルド（ジェイコブの妹）

1948年生まれ。

ストックホルムのオロフ・パルメ記念財団理事。

エドモンド・ロスチャイルド（ジェイコブの父ヴィクターの再従弟）

1916年生まれ。

ロンドン・ロスチャイルド銀行会長（70～75年）、重役（75年以後）として中心的に活動。

タバコ会社「ダンヒル」と「ロスマンズ」のほか、「アライアンス保険」の重役をつとめ、

ウラン・カルテルを形成したカナダ開発の中核として、「ブリンコ」副社長、「ファイブ・アローズ証券」の重役を歴任。イギリスのサウザンプトン近くにエドマンズの父ライオネル・ロスチャイルドが1919年に土地を買って22年かけて巨大な造園工事をおこない、エクスベリー・ガーデンと呼ばれる夢のような庭園をつくる。ライオネルは「趣味で銀行家をやっているが、本業は庭師だ」と語ったが、ヨーロッパ全土の力を集めても庭師の資産に勝てなかった。以来そこに、代々一族が受け継いできた邸宅エクスベリー・ハウスがあり、敷地が10万坪の広大な田園に、しばしばエリザベス女王も訪れる。森と湖ばかりか狩猟、乗馬、何でもできる天国。ここに10の館が聳えて、みな一族が住む。

エドマンズの娘シャーロットは1955年生まれで、自称オペラ歌手だが、歌声はともかく、体格と資金は5代前の金融王として全ヨーロッパを支配したネイサン・ロスチャイルドそのままの女性。

レオポルド・ロスチャイルド（エドマンズの弟）

1927年生まれ。

「ロンドン・ロスチャイルド銀行」重役、「サン・アライランス保険」重役のほか、70〜83年に「イングランド銀行」理事を歴任して、サッチャー首相の経済政策について事実上の支配者となる。

イヴリン・ロスチャイルド（エドマンズの従弟）

1931年生まれ。

99年現在、「ロンドン・ロスチャイルド銀行会長」として、毎朝、全世界の金価格を決定。

「ニューコート・セキュリティーズ」社長、「デビアス」重役、「ファイブ・アローズ証券」重役、「パリ・ロスチャイルド銀行」重役、金塊業「ジョンソン・マッセイ」大株主、経済紙？エコノミスト？会長など、数多の金融機関と企業幹部を兼務。

82年3月1日の国籍をスイスに移し、以後しばしばチューリッヒ

のロスチャイルド銀行が関与したと噂されるインサイダー取引き事件で疑惑が浮上。

フランス家当主 ギイ・ロスチャイルド男爵

1909年生まれ。

戦時中はドゴールの密使をつとめたが、49年に父の死後パリ・ロスチャイルド銀行の資本金の半分を握って頭取就任。「ニューヨーク・ロスチャイルド証券」会長、

メルル・リンチの中核細胞となった「ニューコート証券」社長、

日本に進出した「ファイヴ・アローズ証券会長」、

「リオ・チント・ジंक重役」を歴任して全世界のウラン・カルテルの頂点に立つ。

フェリエールにある歴代の邸宅はギイの手で大改装され、敷地は地平線の彼方まで広がる領地で、農民600人が住む。18世紀ロココ調の邸内はクリスタル・ガラスと黄金の格子細工のシャンデリアのほか、至る所に宝石がちりばめられ、浴室の蛇口は純銀、金の象眼細工、ゴブラン織、鼈甲細工など財宝の山に囲まれる。

ギイの2人目の妻マリーエレーヌは、直系のロスチャイルド一族。彼女の祖母エレーヌ・ロスチャイルドは、あり余る資金を使って、オランダで最も有名なデ・ハール城をユトレヒト郊外に再建した。14世紀の古城を復元するその工事は1892年から1912年まで20年の歳月を費やし、アムステルダム中央駅や国立博物館を設計したオランダ随一の建築家ペトルス・コイペルスが指揮するなか、数百人の芸術家と職人が従事した。内部は建築というよりルイ王朝風の芸術品の宝庫で、絢爛豪華な大ホールの彫刻、柱と壁の文様、調度品、ステンドグラスなどに圧倒される。邸内の敷地には厩舎から教会、バラ園、乗馬コース、テニス・コート、レストランのほか、鹿が走り回り、運河まであるひとつの村。城内には発電機もあり、ギイの義弟にあたるハーヴァード大学出の現代当主ティエリーがそこに住む。

ダヴィッド・ロスチャイルド（ギイの息子）

1942年生まれ。

92年以来ロンドン・ロスチャイルド銀行副会長。

ロスチャイルド・ヨーロッパ社長、ロスチャイルド・カナダ会長、
ジュネーヴのバンジャマン&エドモン・ロスチャイルド・ホールディング顧問など兼務。

バンジャマン・ロスチャイルド（ギイの再従弟エドモンの息子）

1963年生まれ。

父エドモン・ロスチャイルドは、1926年生まれで97年に死去したが、パリ・ロスチャイルド家の数えきれぬ遺産を受け継ぎ、ナポレオン三世が愛人のために建てたパリのシャンゼリゼの大邸宅に住み、ミュージック・ホールのダンサーだった妻ナディーヌはしばしば来日して有名。

デビアス重役のほか、

ロスチャイルド財閥の持ち株会社である北部会社、

世界一の観光会社である地中海クラブ・イスラエル・ジェネラル銀行」、

フランスのスーパーなど数多くの大会社で重役、フランスの長者番付の常連だった。

スイスのレマン湖のほとりにシャトーがあり、邸内はレンブラント、ゴヤ、ルーベンス、チエリーニなど美術品の宝庫で、フランスにも城のような邸宅があった。エドモン死後、息子のバンジャマンがこれら一切を相続し、デビアスの支配権も握る。ジュネーヴのバンジャマン&エドモン・ロスチャイルド銀行会長のほか、チューリッヒのロスチャイルド銀行重役をつとめる。

「ゴールドスミス家」(前書き)

本書は、ユダヤ人による世界政府などという「陰謀論」を支援するものではない。

欧米貴族を知ることとは、ビジネスを知ることになる。弱肉強食なグローバル社会を生きていく上で必要な、一つの教養なのである。

「ゴールドスミス家」

*わがJ・ゴールドシュミット（ゴールドスミス）家は、フランクフルトのゲットーに活動した。

それから、ロンドンで、性のつづりを変えて、姿を現すようになった。

原語で書けば、フランクフルト家（Goldschmidt）が、アムステルダム家（Goldsmid）になったのである。

シティーで自殺を遂げた、ベンジャミンとエイブラハムのゴールドシュミット兄弟は、後者のオランダ系であり、

ウォール街を震撼させる乗っ取り屋J・ゴールドスミスは前者のフランクフルト系である。

*Jノゴールドスミスの祖父アドルフ・ゴールドスミスは、もともとドイツのフランクフルト出身で、

イギリスに渡る前の姓が、ゴールドシュミットであった。

英語名Goldsmithと、ドイツ語名Goldschmidtは同じ姓で、金の細工師を意味する。

このアドルフ・ゴールドシュミットの兄マクシミリアンの妻が、ミンナ・ロスチャイルドであった。

現代のゴールドスミス家「ロスチャイルド家」という名家こそ、いま述べたJ・ゴールドスミスの祖父の代に誕生した家系になる。

*ロスチャイルド家のJ・ゴールドスミスの言葉。

「私は、ユダヤ人に対する時は、カトリックである。

カトリックに対する時は、ユダヤ人である。」…

…人格を民族や血によって定義するほど馬鹿げたことは無い。先入観は禁物である。

*本書の解析の目的が、“ユダヤ人”ではなく、“ロスチャイルド家”と“ロスチャイルド財閥”であることを明確にしておきたい。

ロスチャイルド財閥には、ユダヤ教と対立してきたキリスト教徒だけでなく、全世界の宗教が含まれている。

たとえば、

最も激しい敵対関係にあるはずのアラブ・イスラム世界に目を転じると、

「アラブ・プリヴェ銀行」の経営者は、

J・ゴールドスミス、三十年来の、ビジネスパートナーである。

*J・ゴールドスミス（ジェームズ・ミシェル・ゴールドスミス）という巨人。

この男は、ニューヨークのウォール街とロンドンのシティーを股にかけ、

投資家として最大のタバコ会社「ブリティッシュ・アメリカン・タバコ」を買収しようとしてきた。ラッキー・ストライク、クール・ケントなどのメーカーである。

*ゴールドスミス、この名は金を連想させるが、

その通り、ヨーロッパ第三位の食品会社「カヴェナム」を瞬く間に作り出し、

全世界のビジネスマンが注目してきた、重要な財政家である。

フランスの雑誌「レクスプレス」を買収した。

三度目の結婚相手は、ロンドンデリー公爵家の娘。

アメリカの貴金属商ハンディー・ハーマンを動かし、

イギリスのマーチャントバンカーとして、南アに大きな利権を持つ「ハンブローズ銀行」をパートナーとする。

ケイマン島の脱税会社「ケイマン・アイランズ社」の社長として

君臨・

エッフェル塔の四本足の一本を、買収した、ゴールドスミス。

ゝグッゲンハイム家ゝ（前書き）

「世界は東西に分かれているのでもなければ、国境によって分かれているでもない。“侵略者”と“人間であるうとするもの”によって二分されているのだ」

by 映画監督 エロ

ス・ジャロット

グッゲンハイム家

*ベンジャミン・グッゲンハイムは、アメリカの鉱山王であった。南アフリカの金鉱に進出していた。

一族は、金銀などの精錬事業では、世界一の従業員の数を誇っていた。

祖先はスイスのユダヤ人で、1847年にドイツからアメリカに移民ラッシュが起こったとき、そのひとりが、マイヤー・グッゲンハイムであった。

鉱山開拓には、莫大な資金が必要だった。

グッゲンハイム七兄弟は、鉱山を確保するために、モルガン財閥の門を叩いた。そこで、海軍長官を務めたウィリアム・ホイットニーから融資を得た。(ホイットニー家は、アメリカの大財閥ヴァンダービルト家と閨閥を結んでいた...) 孫のコーネリアス・ヴァンダービルト・ホイットニーは、『風とともに去りぬ』、『レベッカ』、『スター誕生』など大作映画のスポンサーである。

かくして、グッゲンハイムは、モルガンから資金を得ながら、「アメリカ精錬—ASARCO—」を設立。金属の流通部門を支配した。現代アメリカ最大の非鉄金属会社「アサルコ」として、ユタ州やオーストラリアで、ウランを採掘しているのが、この会社である。「ユタ製銅」と「ケネコット製銅」を支配したグッゲンハイム家は、

金銀をモルガン財閥に届けながら、財閥としてのし上がっていた。

*ニューヨーク・シティーにあるグッゲンハイム美術館は、自宅の敷地の、ほんの一部を利用して建てられた。

*このグッゲンハイム家は、ロスチャイルド一族であった。

タイタニック号に乗って、死亡したベンジャミン・グッゲンハイムの弟ソロモンが、
イレエヌ・ロスチャイルドと結婚し、ベンジャミン自身もまた、
イギリス・ロスチャイルドのネイサン一族と閨閥を取り結んでいたからだ。

「アスター家」(前書き)

「これまでの歴史解析の大きな過ちは、

国境を越えた企業ファミリーの系譜について、精密で体系的な調査を行わなかったことである…

…地球は、ロスチャイルド財閥だけで動かせるほど小さいという
事实に、

ほとんどの人は気づいていない…」

by 赤い楯著者・広

瀬隆

「アスター家」

*ジョン・ジェイコブ・アスターは、タイタニック号に、夫妻で乗った。妻マドレーヌだけが助かった。

アスター一族は、ニューヨーク開発の時代に土地を買占め、今日のウォール街、マンハッタン全土を手中に収めた。

ニューヨークの土地の王様である。

初代のジョン・ジェイコブ・アスターは、初代ロスチャイルドと同時代の1763年に、

ドイツのウォルドーツに生まれた。兄ヘンリーとともに、楽器商で働いていた。

その後、ロンドンからニューヨークに渡る汽船で、毛皮商と知り合った。若きアスターは、これに眼をつけた。

毛皮で大もうけし、ニューヨークの土地を買い漁ったわけである。

この初代アスターが死んだのは、1848年、南北戦争の前だった。その当時、アメリカ最大の資産家が、このアスターであったわけだ。

銀行業が盛んになると、ニューヨークは急成長した。当然、土地を持つアスターは、ニューヨークの王様となった。ちなみに、ウォール街の「ウォール」とは、インディアン襲来から身を守るために築いた「砦」に由来する。

さらに、三代目、四代目になると資産は膨れ上がった。ニューヨークのホテル・ウォルドーフ・アストリア・ホテルを建設した。四代目のジョン・ジェイコブ・アスター（タイタニック号で死亡した…）の資産は、今から八十年前で、一億ドルに達していた。楽に、一般市民の「十万年分」の生活費となる。

アスター家が毛皮で成功したのは、毛皮だけでなく、

アメリカ・ロスチャイルド家二代目ウォルター・ネイサン・ロスチャイルドと、銀行家ワーバーク、そしてルーズヴェルト大統領が

一族であつたからである。

「シュトラウス家」（前書き）

「国際的なニュースを見聞きするだけでなく、その裏にある真実を解読するのに、基礎的な知識として、最低限必要なものが、ロスチャイルド財閥の現代史である」

「シュトラウス家」

* イシドール・シュトラウスは、全米一の豪華デパート「メイシ
ー」を育てた男であった。

（このシュトラウスは、英語で、S t r a u s と書き、アメリカ
での読みは“ストラウス”である。シュトラウス家は、ドイツから
アメリカに渡った一族である）

シュトラウス一族は、パヴァリア（ドイツ・バイエルン地方）で
活動するユダヤ商人であったが、南北戦争前の1852年、アメリ
カに移り住んだ。

初代ラザルス・シュトラウスが、ニューヨークで商売に励んでい
るとき、ガラス細工や陶磁器を扱う「メイシー・デパート」の仕事
を引き受けるようになり、二代目のイシドールが、重役まで出世し
た。

彼らは、グッゲンハイムやアスターが入り込んだ上流社会とは異
なり、今日の“高級デパート”という形態を確立したパイオニアで
ある。

シュトラウス家は、タイタニックの死者；イシドール・シュトラ
ウス、その実弟；オスカー・ソロモン・シュトラウスが、アメリカ
合衆国で、最初のユダヤ人閣僚となり、政界さえ動かすファミリー
として台頭したのである。

オスカーは、セオドア・ルーズヴェルト大統領のもとで、190
6年に、商務労働長官のポストを手にした。

なぜ、この反ユダヤ人が過熱する時代に、閣僚になれたのか？
デパート王シュトラウスでは、その説明が十分でない。

鉱山王とデパート王の姓を組み合わせた、グラディウス・グッゲ
ンハイム・シュトラウスという女性が他界している。

彼女は、商務労働長官オスカー・シュトラウスの息子と結婚して
いた。グッゲンハイムは、ロスチャイルド一族と閥閥を結んでいる。

したがって、シュトラウス家もロスチャイルド一族だったのである。

ゝシフ家・ジェイコブ・ヘンリー・シフゝ（前書き）

「歴史は、夜の寝台で、築かれる。少なくとも、ロスチャイルド家に限っては、その通りである。歴史の間は、夜の帳ほど、暗く、淫乱な物語である」

ｼﾌ家：ｼﾞｴｲｺﾌ・ﾍﾝﾘｰ・ｼﾌ

＊ﾛｽﾁｬｲﾙﾄﾞ系投資銀行

ｸｰﾝ・ﾚｰﾌﾞ商会

ﾌｳﾞｧｰﾌﾞ(ｳｵｰﾊﾞｰﾌﾞ)銀行

ｻﾛﾓﾝ(ｿﾛﾓﾝ)・ﾌﾞﾗｻﾞｰｽ

ﾚｰﾏﾝ(ﾘｰﾏﾝ)・ﾌﾞﾗｻﾞｰｽ↓破綻

ﾗｻﾞｰﾙ・ﾌﾚｰﾙ(ﾗｻﾞｰﾙ・ﾌﾞﾗｻﾞｰｽ)

ｼ&W・ｾﾘｸﾞﾏﾝ商会

ｺｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ(ザックス)

ﾃﾞｲﾛﾝ・ﾘｰﾄﾞ

ﾋﾙ・ｻﾐｭｴﾙ

ﾊﾝﾌﾞﾛｰｽ銀行

ﾙｲﾄﾞﾚﾌｴｽ銀行

これらの名前は、業界の人間が耳にすれば、いずれめ見張る大物ぞろい。善良な人々は、このようなマーチャント・バンカーの活動に、一向に、関心が無い。

マーチャント・バンカー

手形の引受をする引受業務の業者のこと。

19世紀のロンドンで発達した外国手形を引受信用(手形の満期日における支払保証)という形で国際決済に深く関わっていた。

満期日の手形支払いによって生まれる荷送人⇨手形振出人に対する貸付を後で、委託荷物の販売代金によって回収する方法を使っていた。英語ではMarchant Bankerという。http://www.igaitame.com/archives/2005/09/post_450.html

戦争に狩り出されては悲憤し、莫大な税金をせしめられながら、

その原因さえ知ることがない。たとえば、筆頭に記したクーン・レーブ商会ひとつ見ても、わが国には忘れられない歴史がある。

日露戦争前は、この商会なしには語れないからだ。

*「クーン・レーブ商会」は、ジェイコブ・ヘンリー・シフによって育てられた投資銀行である。

商会の創設者は、アブラハム・クーンと、ソロモン・レーブ。この両家のファミリーネームを組み合わせ、クーン・レーブ商会」となったが、

両家は事業で手を組んだだけでなく、クーン家の娘イーダと、レーブ家の息子モリスが結婚して、一族となっていた。

創設者ソロモン・レーブの娘テレサと結婚したのが、ジェイコブ・シフであり、日露戦争で日本に資金を調達した。

1904年（明治37年） - 戦費が無いまま日露戦争に突入した日本は、日銀副総裁の高橋是清に命じて、一千万ポンドという巨額の日本公債をロンドン・シティで売り出した。

しかし、売れなかった。一縷の望みを抱いて駆け込んだのが、ロスチャイルド家だった。だが、ここでも、断れた。

高橋是清は、誰かに入れ知恵されたのか、アメリカに飛んだ。ウォール街だ。そこで、一千万の半額を引き受けてくれたのだ「クーン・レーブ商会」のシフだった。

ユダヤ人ジェイコブ・ヘンリー・シフは、いかなる人物だったか。投資銀行「クーン・レーブ商会」を育て上げた男は、ユダヤ人などという枠でくることはできない。「ロスチャイルド人」であった。

*シフは、ロスチャイルドの本家・フランクフルトで、1847年に生を受けた。シフ一族は、金融業を営んでいた。

祖先は、ロスチャイルド家の初代マイヤー・アムシェルと、家を二つに区切って住んでいた。一方に、赤い楯をかかげ、もう一方の扉に、“舟”の絵を掲げ… Schiff は、ドイツ語で、舟である。

ロスチャイルド家と共に育てられたシフが、金融業でのし上がるのは、自然なことだった。

十八歳でアメリカに移住し、クーン・レーブ一族となつてからは、「ユニオン・パシフィック鉄道」に融資するなど、次々と鉄道事業で商会を成長させ、パートナーとして、オットー・カーン、あるいは、ワーバーク銀行のポール・ワーバーク、フェリックス・ワーバークらを迎えて、国際投資銀行の地歩を築いていった。

フランクフルトのゲッター以来、ロスチャイルド家とシフ家ほど、親密な家族はなかった。

ロンドンのロスチャイルド家は、表向きは、高橋是清を追い返し、裏ではシフの手を通じて、日本の公債を買いつけ、さらに、日露戦争で日本の優勢が明らかになると、「パンミア・ゴードン商会」を通じて、日本公債を買い集めた。それが、ロスチャイルド家だった。

「モルガン財閥」（前書き）

「モルガン商会は銀行ではない。アメリカの国家であり、アメリカの法律であり、アメリカの制度である」

「モルガン財閥」

* アメリカの大財閥モルガン家も、ロスチャイルド一族であった。

「モルガン・グレンフェル」というマーチャント・バンクは、「ユダヤ人嫌いのモルガン」と、その「ユダヤ人ロスチャイルド」が合体した投資銀行だ。

では、なぜ、犬猿の仲であるはずの両家が、パートナーとなったのか？

「ロスチャイルド家は、重要な19世紀にアメリカへの投資に意欲的でなかった。そのため、ロッキンフェラーとモルガンに出し抜かれた」 - このような俗説が氾濫しているが、それは、家計図を調べたことのない、投資エキスパートが陥り易い結論である。

1837年、金融王ネイサンがこの世を去った翌年、ロスチャイルド家は、アメリカに刺客を送り込んだ。誰あるう伝説の富豪；オーガスト・ベルモントであった。

彼は、新天地アメリカに着くと、ロスチャイルド家の代理人を名乗りながら、そちこちで、女を物色し始めた。こうして、探し当てたのが、キャロライン・ペリーだった。このキャロラインこそ、浦賀までやって来たペリー提督の娘であった。

ペリー一族も、ベルモントの「寝台戦法」を学んだ。かくして、ペリー提督の兄の曾孫；アリスが、ジョゼフ・グリユーと結ばれた。グリユーは、ボストンの上流社会に属する人物だ。

オーガスト・ベルモント（-）キャロライン・ペリー
ス・ペリー（-）ジョゼフ・グリユー…

…このような関係となり、グリユーは、ベルモント一族となった。その後、ジョゼフ・グリユーは、太平洋戦争前に、アメリカ日本大使として、三井・三菱財閥を渡り歩き、軍人と交流を深めていっ

た。その狙いが、中国大陆での石油利権であつた。

そして、このグリユー一家のジェーン・グリユーが、当時全米一の富豪J・P・モルガンJrの妻となっていたのである。

したがって、今日、アメリカの巨大財閥モルガン家は、消滅したという話が定説になっているが、しかし、彼らは、姿を変えて生きている。

まぎれもなく、ロスチャイルド家の代理人オーガスト・ベルモンと閨閥をつくり、「モルガン・グレンフェル」のなかに融合している。モルガン家は統一ドイツの象徴「ドイツ銀行」に入り込んでいる。

第二次世界大戦中に、ロスチャイルドとモルガンの仲は、ファシズムの台頭によって引き裂かれたが、それも一瞬の出来事であつた。現在でも、モルガン財閥のペン・セントラル鉄道の大株主は、ロスチャイルド財閥の「リオ・チント・ジンク社」である。

フランス・モルガン商会の社長メイニアルの弟は、ロスチャイルド財閥の大手金属会社「ペナロヤ」の重役。ロスチャイルド家の大物J・ゴールドスミスが買収した、大手スーパーマーケットに投資しているのは、ほかならぬモルガン・スタンレーである。

追記

1989年、「ドイチェ・アセット・マネジメント・グループ」の前身となる「モルガン グレンフェル」は、1世紀を超える長い歴史と伝統を誇る「ドイツ銀行」と統合。人と技術の融合により、グローバルな資産運用グループとしての地位を確立しました。そして、さらに「バンカース・トラスト」、「チューリッヒ・スカダー」と統合することによって、その事業基盤を不動のものとしてきました。

沿革：グローバル

1838年 ビーボディ リグス アンド カンパニー（マ

ーチャントバンク) 設立

1864年 J・S・モルガンが参画、J・S・モルガン
アンド カンパニーとなる

1870年 ドイツ銀行設立

1910年 J・S・モルガン アンド カンパニーにエド
ワード・グレンフェルが参画、

モルガン グレンフェル アンド カンパニーとなる

1989年 ドイツ銀行がモルガン グレンフェルを買収、
同行の資産運用部門となる

2002年 ドイツ銀行がチューリッヒ・スカダー・インベ
ストメンツを買収

[http://www.damj.co.jp/JA/showp
age.aspx?pageid=27](http://www.damj.co.jp/JA/showpage.aspx?pageid=27)

ゝモルガン・グレンフェル小史ゝ（前書き）

http://plaza.rakuten.co.jp/HEAD
T666/diary/200408100000/ よりお借り
しました。筆者が編集したものではありません。

└ モルガン・グレンフェル小史 ┘

今日までのモルガン商会の沿革をまとめると、次のようになる。

モルガン商会「J・P・モルガン

イギリスへモルガン・グレンフェル」

1843年ジョージ・ピーボディーロンドン商会設立↓

1854年ジュニアス・スペンサー・モルガンがパートナーとなる↓

1864年改組してJ・S・モルガンロンドン商会↓

1900年ロスチャイルド一族のエドワード・グレンフェルが支配人となる↓

1910年改組してモルガン・グレンフェル↓

1980年代にJ・P・モルガン直系の曾孫ジョン・アダムズ・モルガンが重役室に復帰↓

1989年11月ドイツ銀行が買収

アメリカ「J・P・モルガン」

1861年J・P・モルガンニューヨーク商会設立↓

1871年改組してドレクセル・モルガン商会↓

1895年改組してJ・P・モルガン商会↓1903年バンカーズ・トラストを分離設立↓

1935年モルガン・スタンレー（投資銀行）を分離設立↓

1959年ギャランティー・トラスト（1864年創業）と合併、

モルガン・ギャランティー・トラストとなる↓1969年持ち株会社J・P・モルガン設立↓

1979年ロンドンにモルガン・ギャランティー・トラスト設立（

1988年J・P・モルガン・セキュリティーズと改名）↓

1988年持ち株会社J・P・モルガンとアメリカのモルガン・ギヤランティー・トラストとイギリスのJ・P・モルガンセキュリティ

イーズすべてを合併↓全世界でJ・P・モルガンに社名統一
(98年ヨーロッパ企業のM&A仲介実績で世界第7位。1998年バンカーズ・トラストをドイツ銀行が買収)

フランス・モルガン商会(モルガン・エ・シー)

1926年設立↓

1975年以後モルガン・スタンレーの子会社となる。

モルガン・スタンレー

1935年J・P・モルガン商会から投資銀行として分離設立↓

1975年以後フランスのモルガン商会を完全子会社とする↓

1977年ロンドンにモルガン・スタンレー・インターナショナル
設立↓1997年シアーズ・ローバックの子会社だったデイン・
ウィッターと合併し、モルガン・スタンレー・デイン・ウィッタ
ーとなる

(92年に莫大な利益をあげて日本市場を破壊し、通称マック・ザ・
ナイフと呼ばれる社長ジョン・マックのもとで厳しいコスト削減命
令が出され、98年の全世界M&A仲介実績では、ゴールドマン・
サックス、メリル・リンチに次いでモルガン・スタンレー・デイ
ン・ウィッターが世界第3位、ヨーロッパ企業のM&A仲介実績で
は世界第1位となる。

ドイツ銀行

1870年ゲオルク・ジーマンスが設立↓

1990年代までにドイツの全産業を支配↓1980年モルガン・
グレンフェルを買収↓

1998年バンカーズ・トラストを買収(実質的なロスチャイルド・
モルガン連合に変貌)

とても素晴らしくまとめであったので、お借りしました。

AT66/diary/200408100000/より
http://plaza.rakuten.co.jp/H

食品帝国『ユニリーヴァー』

欧州産業ベスト10（1990年）

- 一位 ロイヤル・ダッチ・シェル
- 二位 ブリティッシュ石油（BP）
- 三位 イタリア産業復興公（IRI）
- 四位 ダймラー・ベンツ
- 五位 ファイアット
- 六位 ユニリーヴァー
- 七位 フォルクスワーゲン
- 八位 ジーメンス
- 九位 ネッスル
- 十位 ルノー

ヨーロッパの食品産業（ユニリーヴァー、ネッスル）は、わが国では、想像もできない大きな規模を持っている。その王者ユニリーヴァーは、「リプトン」、「ブルックボンド」、「石鹼ラックス」、その他日用品のすべてを手がける。人知れず、世界最大のマンモス食品会社となっていることが、この帝国の象徴である。

【ウィキペディアより】

ユニリーバ（Unilever N.V./Unilever PLC、蘭/英）は、オランダとイギリスに本拠を置く、食品、洗剤、ヘアケア、トイレタリーなど家庭用品メーカー。

二元上場会社であり、ロッテルダムにユニリーバNV、ロンドンにユニリーバPLCの2つの法人がある。

NVはユーロネクスト・アムステルダムとニューヨーク証券取引所（ティッカーシンボル：UN）に、PLCはロンドン証券取引所

とニューヨーク証券取引所（ティッカーシンボル：UL）に株式を上場している。

【ユニリーヴァーの社史】

1885年、イギリス人のウィリアム・リーヴァーが、石鹼の製造をはじめ、成功を収める。貪欲に、植民地に進出し、中央アフリカに「ユナイテッド・アフリカ」という生産拠点をかまえる。

その頃、オランダのロッテルダムに、別のライバル会社が出現。マーガリンの大メーカーで、「マーガリン・ユニ」、「マーガリン・ユニオン」という二大会社をもつ食品帝国であった。こちらも、食品会社を買収し、成長してゆく。

さて、英蘭を股にかける「マーガリン・ユニ」は、イギリス大手小売店「セインズベリー」を誕生させ、小売業界をおさえて、イギリスの食品業界を牛耳っていった。現在のオーナーは、イギリスの富豪第三位というスーパリーチ：ジョン・セインズベリーだ。

このジョン・セインズベリーの祖母の名は、メーベル・ヴァンデーンバーグという。

ヴァンデンバーグ家は、オランダのバター商人として、ヨーロッパ中を支配した。つまり、このバター商人：ヴァンデンバーグ家が、「マーガリン・ユニ」、「マーガリン・ユニオン」の創業家である。セインズベリー家は、マーガリンを仕入れ、小売業で、これをさばき、大儲けした。勿論、両家は、二代目から、寝室を共にするほどの関係である。

したがって、「セインズベリー」と「マーガリン・ユニオン」は、販売・製造を分担する兄弟会社である。ちなみに、「マーガリン・ユニオン」の前身「マーガリン商会」の会長は、イギリス大富豪二位のウエストミンスター公爵である。

1929年、ヨーロッパ最大の食品会社である、「ユニ」と、さきほどの「リーヴァー」が合体した。オランダとイギリスに国籍を

もつ、世界一の食品会社である「ユニリーヴァー」の誕生だ。大恐慌により、倒産寸前の会社を次々に買収し、文字通り、ヨーロッパの食品帝国を築いた。

しかし、このような成功は、ロバート・コーエンによってなされた。

第一位の「ロイヤル・ダッチ・シェル」を誕生させた人物である。また、「ユニリーヴァー」を合体させた人物でもある。また、パレスチナ商会を設立して、イスラエル建国に尽力していった。彼の力は、息子のバーナード・コーエンが、ダイヤを牛耳る「デビアス」と取引する、イスラエルの「ユニオン銀行副会長」として君臨し、ロンドン市長を務める大物であったことから分かるだろう。

そのようなロバート・コーエンは、父方・母方ともに、ロスチャイルド家という純血の一族であり、世に言うユダヤ人ではなく、ロスチャイルド人であった。

ヴァンデールバーグ家とコーエン家は、モンタギュー・サミュエルを介してつながっている。

プロパガンダ放送局

“好戦的シオニスト”の牙城を紹介。

「イラクに大量破壊兵器！」

「フセインとウサマ・ビンラディンを殺せ」

「イスラエル万歳！！」

としか叫ばない、テロリズムの恐怖を煽り、世界に、恒常的戦争関係をもたらす、放送局。

注）ユダヤ人とは、世界中で戦争をけしかける、イスラエルシンパという意味。

『ABC放送』

ABC放送は、NBCから分離して誕生。

ユダヤ人レナード・ゴールドensonが、1951年に買収し、会長兼CEOとして君臨。

ゴールドensonは、イスラエル建国運動のシオニストであった。

95年に、デイズニーが、そのABCを買収。

デイズニー会長：マイケル・アイズナーも、シオニズムを強力に支援してきたユダヤ人一族であった。そのアイズナーは、ハリウッドのタレント支配者：マイケル・オーヴィッツをデイズニーに迎え、映画業界ぐるみで、ABCの放送内容に支配力を及ぼしていた。アイズナーは、エルサレムを、「イスラエルの都」と放送し、政治的な問題となった。保守的な創業者ウォルト・デイズニー一家と、社内に対立し、2003年以来、経営権をめぐり争っている。

また、ゴールドensonは、フォックス放送のメディアエルパート・マードックをアメリカ報道界に導き、後ろ盾となった人物である。

『CBS放送』

創業者：ユダヤ人ウィリアム・ペイリー。

彼は、新聞王ハースト一族、大統領ルーズヴェルト家、大富豪ホイト二一家らを近親者として、閥閥に入り込んで、報道界を牛耳ってきた。

彼の引退後、映画劇場チエーン（ローズ・コープ）の支配者ローレンス・ティッシュュが、CBSを支配。ティッシュュも、ユダヤ人でイスラエルシンパである。なぜなら、ユナイテッド・ジューウィツシュ・アピールという、アメリカ最大規模のユダヤ人組織の会長をつとめ、イスラエルとユダヤ系シンクタンクへの資金援助を行ってきたからである。

『NBC放送』

ユダヤ人デヴィッド・サーノフが支配し、ロックフェラーと組んで、成長したメディアである。

そのサーノフの息子が、ロスチャイルド家のマーチャント・バンカー：ウォーバーク家の娘と結婚。

彼女が、また、フランクリン・ルーズヴェルトの大統領の息子とも結婚。ウィリアム・ペイリーと、複雑な姻戚関係にあった。

この閥閥は、クリントン政権のゴア副大統領の娘にもつながり、政界・金融界・メディア界が一体となっている。

NBCは、マイクロソフトと提携。ゼネラル・エレクトリック（GE）の傘下企業となり、GE副会長のユダヤ人デニス・ダマーマンが、この世界を支配してきた。

さらに、ユダヤ人ダニエル・アロンが経営してきた、コムキャストが、現在全米最大のケーブルテレビ・プロバイダーとなり、デイズニーと提携。このコムキャストに、マイクロソフトが投資し、放送・通信業界の最大勢力が結集している。

『フォックス放送』

創業者：世界のメディア王ルパート・マードックが、1985年に、映画メジャーの20世紀フォックスを買収後に設立したネット

ワークである。

イスラエルのシャロンの親友でもあるマードックは、ABC会長
ゴードンソンを庇護者として、アメリカで台頭し、アメリカ報道
界では、最も露骨なネオコン支援者である。

このフォックスが、マードックの総本山であるニューズ・コーポ
レーションが、イスラエルに巨額の投資を行ってきた。同じグルー
プ内の新聞“ニューヨーク・ポスト”と共に、2003年の、イラ
ク攻撃を支援し、アメリカに楯突くシラク大統領に個人攻撃をかけ、
ネオコンの理論誌“ウィークリー・スタンダード”の出版資金を、
全面的に出資してきた。

広瀬隆『一本の鎖』p.36

セブン・シスターズ略史

19世紀末～20世紀にかけて世界の石油市場を支配した国際石油資本7社を総称したニックネーム。

「セブン・シスターズ」とは「7人の魔女」の意。

1950年代には中東産の原油のほぼ全てを独占。

ロイヤル・ダッチ・シェル……英蘭系。

エクソン……ロックフェラー財閥系。1998年、モービルとの合併を発表。

ブリティッシュ・ペトロリアム（BP）……1909年設立。

1998年12月31日、米大手石油会社アモコ（かつてのスタンダード石油の流れを汲む）と合併、「BPアモコ」となった。

テキサコ……1902年米テキサスで設立。1936年サウジアラビアから利権獲得、積極的な販売拡張を進めて急成長、ガソリン販売量でトップに立った時代もある。

しかし石油危機に際して拡張戦略が裏目に出て危機に直面。1990年代後半にはロイヤル・ダッチ・シェルなどと米国内下流事業の統合を進める。

ガルフ……正式社名「スタンダード・オイル・オブ・カリフォルニア」。中東での鉱業権を失い、1984年ソーカルに吸収合併され「シェブロン」に。

ソーカル……ロックフェラー系。1984年ガルフを併合し、「シェブロン」となる。

モービル……ロックフェラー系。1998年、エクソンとの合併を発表。

（<http://www.tcat.ne.jp/eden/Hst/dic/seven|sisters.html> より引用）

▲ スタンダード石油（エクソン・モービルとシェヴロン・テキサコ）

1870年 ロックフェラー兄弟らが、スタンダード石油Standard Oil Coを設立

その後 全米の石油精製事業と輸送事業の90%以上を支配、トラストを形成（総本山スタンダード石油ニュージャージー）

1911年 シャーマン・アンチトラスト法により、トラストが解体し、34社が独立…

▲ エクソン

1911年 シャーマン法により、スタンダード石油ニュージャージー独立

1948年 アラムコに資本参加

1972年 エクソンExxon Corpに社名変更

1999年 モービル石油と合併、エクソン・モービルExxon Mobil Corpとなる

▲ モービル

1911年 シャーマン法により、スタンダード石油ニューヨーク独立（通称SOCONY）

1931年 ヴァキューム石油と合併、ソコニー・ヴァキュームに社名変更

1948年 アラムコに資本参加

1955年 ソコニー・モービル石油Socony Mobil Coに社名変更

1966年 モービル石油に社名変更

1999年 エクソンと合併、エクソン・モービルとなる。

▲ シェヴロン

1911年 シャーマン法により、スタンダード石油カリフォルニア独立

1933年 カリフォルニア・アラビアン・スタンダード石油を設立
1984年 ガルフ石油を買収して、シェヴロンChevronと改称

2001年 テキサコと合併して、シェヴロン・テキサコChevronTexaco Corpとなる

▲ ガルフ石油

1901年 J・M・ガフイー石油会社J・M・Gulffey Petroleum Coを設立

その後 メロン家が、ガルフ石油精製Gulf Refining Co.を設立

1907年 メロン家が、両社を統合して、ガルフ石油Gulf Oil Corpを設立

1984年 スタンダード石油カリフォルニアに買収され、シェヴロンに統合される

2001年 シェヴロンがテキサコと合併、シェブロン・テキサコとなる

▲ テキサコ

1901年 テキサス燃料会社Texas Fuel Co.を設立
1902年 テキサス・カンパニーTexas Companyと改称、モルガン商会系の資本導入

1906年 テキサコTEXACOを商標登録として通称とする
1959年 テキサコTexaco Inc.と正式に社名変更

1987年 ゲティー石油買収をめぐり、ペンゾイルと争い、敗訴して倒産

2001年 シェヴロンと合併、シェヴロン・テキサコとなる

▲ B P

1886年 ビルマ石油（パーマー石油）Burmah Oil Co. を設立

1909年 ノックス・ダーシーの石油シンジケート（第一探査会社 The First Exploration Co.）がい改組されて、アングロ・ペルシャ石油 Anglo-Persian Oil Co が設立、ビルマ石油の子会社に

1914年 イギリス政府が、アングロ・ペルシャ石油の株、52%を取得

1935年 アングロ・イラニアン石油と改称

1954年 ブリティッシュ・ペトロリアム British Petroleum（イギリス石油）と改称

1970年 スタンダード石油オハイオと合併

1978年 スタンダード石油オハイオを完全子会社化

1998年 アモコと合併して、BPアモコとなる。（スタンダード石油インディアナ↓1985年アモコと改称）

2000年 アトランティック・リッチフィールド（旧スタンダード石油トラストの1社ARCO）を買収

2000年 BPと改称

▲ ロイヤル・ダッチ・シェル

1892年 マーカス・サミュエル商会が、バクー油田の石油輸送開始

1897年 シェル輸送貿易会社 Shell Transport & Trading Co. に改称

1903年 オランダ東インド系会社ロイヤルダッチ石油（1890年設立）と合併し、アジア石油 Asiatic Petroleum Company を設立

1907年 ロイヤル・ダッチ・グループと改称して、インドネシアの石油採掘会社として、オランダ石油会社 Bataviafische

Petroleum Maatacapijを設立

1967年 ロイヤル・ダッチ・シェルの子会社オランダ石油会社が、シェル石油Shell Petroleum N.V.と改称

▲ アラムコとサウジアラムコ

1933年 ソーカルが、カルフォルニア・アラビアン・スタンダード背き油California Arabian Standard Oil Co.を設立

1936年 テキサコが50%資本参加し、両社で、合併会社カルテックスCaltexを設立

1944年 アラビアン・アメリカン石油Arabian American Oil Co.（通称ARAMCO）と改称

1948年 エクソンとモービルが資本参加

1973年 サウジアラビア政府がアラムコへの出資比率を51%にする

1980年 サウジアラビア政府の完全所有会社となる

1988年 サウジアラビアン・オイルSaudi Arabian Oil Company（通称サウジアラムコSaudi Aramco）と改称

（以上、広瀬隆著『世界石油戦争』NHK出版 P.167より抜粋…）

世界財閥著名“人物録”

ウィンストン・チャーチル（前書き）

初回は、チャーチル。これを章句として、人物録が始まります。

世界財閥著名“人物録”

ウィンストン・チャーチル

○ウィンストン・チャーチル首相

1874年生まれ。

イギリスの国民的英雄。

英雄思想に取り付かれた戦争屋。ヒトラーによる、イギリス本土上陸作戦を阻止したことから、現代でも、イギリス国民から、莫大な人気を得ている。

第二次世界大戦が終結すると、すぐさま、アメリカ大統領トルーマンとともに、「鉄のカーテン演説」を行い、冷戦を演出した。

二十一歳のとき、“赤い楯”のお邸に招かれた。若きチャーチルは、この一族に惚れ込み、母に次のような手紙をしたためた。

「ロスチャイルド卿は素晴らしい感覚の持ち主で、まことに博識です。このように賢い人に会って話を聞くことができるというのは、実に貴重な体験です」

それから、チャーチルは、ロスチャイルド家の飼犬と化した。

チャーチルは、終生、ロスチャイルド家の代理人として働いた。

戦後、「アングロ・アメリカン」や「リオ・チント」の資金を糾合して、カナダに巨大発電プロジェクトを成功させ、アンソニー・ロスチャイルドとエドモンド・ロスチャイルドを感激させたのが、イギリス人の英雄・チャーチルだった。

ロスチャイルド家の誠実な代理人で好戦家、これが、チャーチルの隠された最大の特質だった。

「私が老いても、友情が壊れないというのは、嬉しいことです」。

その閨閥は、従兄のチャールズ・チャーチルが、19世紀全米一の大富豪ヴァンダービルト家の娘と結婚している。金がないような顔をして、中身は、でっぷり肥え太っていた。金融王ネイサンのよ

うに・・・

従姉リリアン・チャーチルは、イングランド銀行総裁と、モルガン・グレンフェル創業者のグレンフェル一族と結婚し、これまた、ロスチャイルド家とモルガン家を両手に抱いていた。

チャーチル本人は、モルバラ（マルボロ）公爵家に属する、最高位の貴族ファミリーで、1953年に、ガーター勲章を授けられて、サーの称号で呼ばれるようになった。

ちなみに、チャーチルのモルバラ公爵家から分家して生まれたのが、あの”ダイアナ王妃”であった・・・

オードリー・ヘップバーン

オードリー・ヘップバーン (Audrey Hepburn、1929年5月4日 - 1993年1月20日) は、イギリスの女優。

本名は、オードリー・キャスリーン・ファン・ホームストラ・ヘプバーン＝ラストン (Audrey Kathleen Van Heemstra Hepburn-Ruston)。日本においてはヘップバーンと表記する場合もある「1」「2」。各種資料の一部に本名を「エッダ・ファン・ホームストラ」とするものもある。「エッダ」は、戦時中、ドイツ占領下にあったオランダで、「オードリー」という名がイギリス的であることを心配した母エッラが、自らの名前をもじって (Ella を Edda とした) 一時的に変えたものである……

【晩年】

1989年の引退後、^{ユニセフ}国際連合児童基金のユニセフ親善大使に就任し、当時内戦の続くソマリアやスーダンなどの子どもたちに笑顔を届けた。就任の際に、オードリーは「わたしは、ユニセフが子どもにとってどんな存在なのか、はっきり証言できます。なぜって、私自身が第二次世界大戦の直後に、食べ物や医療の援助を受けた子どもの一入だったのですから」と語っている。その一方で『世界の庭園 (庭園紀行)』という番組のホスト役として、7ヶ国、16の庭園を訪れる……

(ウィキペディアより)

一世を風靡した、スーパースター。誰もが、彼女の美しさに、酔いしれた……。しかし、その美しい仮面をはがせば、彼女の顔は、己の呪われた身に、泣き濡れていた……

彼女の閨閥は、ヘームストラ男爵に象徴される。

そのうち、彼女の祖父「アールナウト・ヘームストラ男爵」の妻・アスベック家を見るだけで、インドネシア生まれの“シエル石油”の重役が、そろそろいる。

ヘップバーンの父は、ナチス黒シャツ党の幹部。母の祖父は、オランダ領ギアナの総督として、植民地侵略の先人を務めた人物であった。また、母方の系図には、ドイツのティッセン男爵と、シュレーダー男爵が存在する。

シエルとは、“ロイヤル・ダッチ・シエル”であり、ロイヤル・ダッチとは、「オランダ王室」という意味である。

そのシエルが、なぜ、ナチスドイツに石油を売ったのか？

上記の通りである。

系図の中の、“ビジネス”だ。第二次世界大戦中に、オランダにいたユダヤ人の、実に八割が、ナチスに殺され、その悲劇は、十万人を超える夥しい数に達した。そのなかの一人が、アンネ・フランクである。

その系図の特長は、説明するまでもなく、多くの一族が関わっているシエル石油の利権である。

また一方で、ナチス関係者が揃っているだけでなく、死の商人と、植民地総督のほか、オランダの大蔵大臣が存在して、ロスチャイルドの婚姻関係を生み出していた。

こうした事実を書かなければならないのも、実は、国連大使の活動の陰に隠れて、無数の問題が、第三世界で、進行してきたからである。国連を平和機関にするどころか、有名女優を利用して、自分たちの利権を拡張する者があまりにも多い……

アメリカとヨーロッパの軍隊が、実際に、アジア・アフリカ・南米で、国連の旗の下に、民衆の血を流している……そうした事実があれば、これらの歴史に目を塞ぐべきではないだろう。

ヨーロッパの歴史は、どんな暗闇よりも暗く、深い……

ロスチャイルド家の金融・メディア・軍事・政界支配（前書き）

「なぜ、戦争と紛争がなくならないか？・・・
・・・それが、純粹に、おいしいビジネスだからだ」

ロスチャイルド家の金融・メディア・軍事・政界支配

始祖ネイサン・ロスチャイルド

* ▲血族支配 パートナー

【金融】

イギリス

▲ロスチャイルド銀行

▲モカッタ・ゴールドシュミット

▲サミュエル・モンタギュー

ベアリング・ブラザーズ

バークレース銀行

ロイズ銀行

フランス

▲ロスチャイルド銀行

▲スエズ銀行

▲ラザール・フレール

▲ルイードレフェス銀行

▲セリグマン銀行

▲ユーラフランス

クレディ・リヨネ

ソシエテ・ジェネラル

パリバ銀行

アメリカ

▲グッゲンハイム財閥

▲ソロモン・ブラザーズ

▲リーマン・ブラザーズ
↓ 破綻

▲S・G・ウォーバーク

▲セリグマン

▲クーン・レーブ

▲ディロン・リード

▲ゴールドマン・サックス（ロバート・ルービン財務相）

モルガン・スタンレー

アメリカン・エクスプレス

スイス

▲ロスチャイルド銀行

▲クレディ・スイス

スイス・ユニオン銀行

スイス銀行

【メディア】

イギリス

▲フィナンシャル・タイムズ

▲ロイター通信

▲サンデー・タイムズ

マルコーニ

タイムズ

BBC放送

フランス

▲エッフェル塔

▲ヌーヴェル・エコノミスト

▲レクスプレス

▲レクスパンション

ル・モンド

ル・フィガロ

レ・ゼコー

ヴァーグ

TFI

アメリカ

▲NYタイムズ

▲ワシントン・ポスト

▲インターナショナル・ヘラルド・トリビューン

▲ニューズウィーク

▲ニューヨーク・ポスト

▲ピュアリッツァー賞

タイムワナー

CBS放送

NBC放送

【軍事】

NATO軍・EU

イギリス諜報工作機関MI6 (イアン・フレミング↓007の執

筆家兼スパイ)

フランス諜報工作機関DGSE

国連PKO部隊 (事務総長ブトロス・ガリ、副高等難民弁務官ア
ガ・カーン(MI6)、事務総長特使サイラス・ヴァンス、PKO
生みの親ブライアン・アークハート)

ユーロファイター・コンソーシアム

ダッソ・ブレゲ航空機 (一族経営) ↓ ミッテラン元仏大統領

↑ (選挙資金) 英仏ロスチャイルド銀行 (選挙資金) ↓ メージャ
ー元英首相

アエロスパシャル

ブリティッシュ・エアロスペース（ヴィカース）（アームストロン
グ）（ホーカー・シドレー）

ゼネラル・ダイナミックス

ロールス・ロイス

イスラエル航空機

ノーベル・ダイナマイト・トラスト

デュポン（弾薬メーカー）

GEC

（広瀬隆『地球のゆくえ』より）

ロスチャイルド・ロックフェラー連合（前書き）

「金持ちほど、喧嘩しないものだ．．
貧乏人に、足をすくわれるから」

ロスチャイルド・ロックフェラー連合

注) ? 名前の縦の列は、親戚関係で結ばれている。 ? 右に行くほど、現代に近づく

? 上下、くつついた名前は、夫婦。婚姻関係。 ? 離れている場合は、兄弟・姉妹

? つまりは、すべて親族関係で結ばれている。

モルガン財閥始祖

ジャック・モルガン

ont Morgan Morgan Jr John Pierp

John Quincy Adms ?
Charles Adams ?

Louisa Adams

artman Kuhn Charles Kuhn H

Ellen L
yle □

スチャイルド家

Mary Lyle

ett ← Henry Back

金融王ネイサン

che Roth... Hannah Roth Mayer Ams

Nathan Rothschild Anthony Arc

hildald Primrose

Henrietta Rothschild

Stu

art P-Bouverie

Abraham Montefiore

Ja

cob P-Bouverie

Sarah Montefiore Joseph S-

Montefiore

Solomon Sebag

Char

les Adeane Jac

ob Joseph

Solomon Moses Sarah Mose

s

Benjamin Guinness

(兄) Rachel Gratz

Bridget W - Bulkely

チャーチル首相の大祖父

チャーチル首相

John S - Churchill

Winsto

n S - Churchill

Louisa S - Ch

urchill

Synold

a Butler

Robert Spen

cer

George Spen

cer Francis Samuelson

Phillis Samuelson

Edward McCormick

Harold McCormick

ロックフェラー家↓

ohn Davison Rockefeller Edit J

h Rockefeller

William Rockefeller
William Rockefeller

(弟) Benjamin Gratz Henry Gratz
Benjamin Gratz?

編集通りならない・・・(愛嬌)

(

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3612/>

三分で！裏まで透ける『世界の資料集』

2010年10月9日18時22分発行